

ダルク女性ハウスセミナー

最も困難な状況の母子の支援

～刑務所に収監された母と残された子ども～

日時：2017年6月5日（月）午後1:00～4:30
場所：北とぴあ 第2研修室（東京都北区王子1-11-1）
JR王子駅より徒歩1分
参加費無料 定員100名
（申し込み不要先着順）

薬物依存症の母親は、入院や収監により、子どもと分離され、しかも自身の子供時代は虐待や育児放棄を経験し育児の術を学んでいない。多くが母子家庭で経済的・精神的に切迫した中で子育てを行うため、孤立して助けを求められないまま虐待に走る危険性を抱えている。ダルク女性ハウスは過去20年間こうした母子に寄り添い支援をしてきたが、今回は中でも最も支援の手が届いていない「服役中の母親」の支援をいかに行うか、当事者・専門家が中長期的対策を模索し、共に考える。

プログラム

- 13:00～ 開会の挨拶 ダルク女性ハウス代表 上岡陽江
- 13:10～ 講演「女子刑務所のあり方研究会から見てきたもの」
前千葉県知事、女性と健康ネットワーク代表 堂本暁子氏
- 13:40～ 講演「薬物事犯女子受刑者について」
福島刑務所 牛木潤子氏
- 14:10～ パネルディスカッション「刑務所を出た後の子どもとの関係」
千葉大学大学院社会科学研究院教授 後藤弘子氏
ダルク女性ハウスのお母さんたち
- 14:55～ 休憩
- 15:15～ 報告「出所後の子育て支援をどう受けてきたのか」 当事者
- 15:35～ 質問コーナー
- 15:55～ 講演「海外からの報告～処罰から地域支援へ」 日本薬物政策アドボカシーネットワーク
ディレクター 古藤吾郎氏
- 16:15～ 閉会の挨拶 何が明らかになったか？

主催：NPO法人 ダルク女性ハウス（03-3822-7658 石川）

助成：2016年度ファイザープログラム

～心とからだのヘルスケアに関する市民活動・市民研究支援～

